

HPAI 発生時における従来法と集鳥ラックを用いた殺処分法の比較

中丹家畜保健衛生所

○前田真彬 山本哲也

【はじめに】高病原性鳥インフルエンザ（以下、HPAI）発生時の殺処分方法として、従来から使用されているポリペール（以下、従来法）と他県の大規模農場で実用された集鳥ラック（以下、集鳥ラック法）を用いた方法を比較したので概要を報告。【材料及び方法】

①府内最大規模の採卵鶏農場において、6羽/ゲージ×4段を1クールとし、捕鳥から炭酸ガス注入場所までの移動に要した時間を3クール測定して作業性を比較。②発生農場における殺処分状況を基に作業性を比較。【結果及び考察】①従来法は1クール運搬4名、捕鳥2名の計6名で作業し、平均作業時間は4分8秒、集鳥ラック法は1クール運搬1名、捕鳥2名の計3名で平均作業時間は3分50秒。従来法より集鳥ラック法は作業性が高い可能性。②発生農場の実際の作業では、従来法が30名で1時間当たり約1,100羽、集鳥ラック法が22名で1時間当たり約1,000羽であり、動員者1人1時間当たりの殺処分羽数は、従来法36.7羽、集鳥ラック法45.5羽と集鳥ラック法の作業効率が約1.2倍。一方、集鳥ラック法では、鶏体をラックからの取り出す際の羽毛の飛散や炭酸ガス注入に専用資材一式が必要となることが課題。【まとめ】集鳥ラック法は作業性に優れているが、解決すべき課題が残っていることから、引き続き、より効率的な防疫作業方法を検討。